

学校法人 萌愛学園 かもめ幼稚園 令和6年度 園評価

園長 福士 恵里子

1. 本園の教育目標

『つよい子』『やさしい子』の育成

一人ひとりの園児の実態を正しくとらえ、園児が喜んで登園し安定して遊べる望ましい環境を構成する。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、幼児期に大切な楽しい充実した生活経験を通し、個性豊かで身体的、精神的に調和のとれた人間形成の基礎を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- 地域社会との繋がりを大切に、地域の特性を生かした活動や、四季を通して、子どもたちが伸びやかに活動し、多くの学びが得られるよう保育計画を見直す。
- 少子化が進み、園児数が減少傾向にあり、学年ークラス編成とする。これまで以上に職員間で学年の取り組みと同様に異年齢での活動計画を立て職員間で共通理解を図る。
- 保育の質の向上を目指していく。指導計画・園内研修について、職員間で話し合い、前向きに研修を進めていき理論と実践に繋げ、より良い保育に努めていく。また、職員は園児の模範となる行動や言動が取れるように一人ひとり、意識を高める。
- 昨年度より、一時預かり事業など『子育て支援』にも力を入れ充実を図ってきた。
今年度も地域の子育て世代が利用しやすいように、また幼稚園での活動を地域に分かりやすいように情報を発信していく。
- 今年度より、給食（外販）がスタートする。食育活動にも力を入れる。
（食と健康・食と人間関係・食と文化・いのちの育ちと食・料理と食）
- 各関係機関との連携を大切にする。就学時は小学校との連携を大切にしながら、学校見学などをし、年長児が期待をもちながら就学へと繋がるようにする。
入園前には、保護者の了解を得て、支援を要する児の対応として十分な連携を心がける。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

自己評価（教職員）と園評価（保護者）を連絡アプリからアンケート調査実施。

(1) 対象者内容

対象者	人数	回答数	実施期間
教職員	16人	14人	R7.2月25日～R7.3月4日
全保護者	63人	58人	R7.2月25日～R7.3月4日

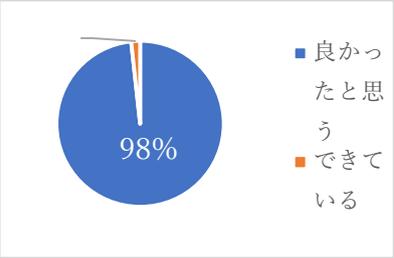
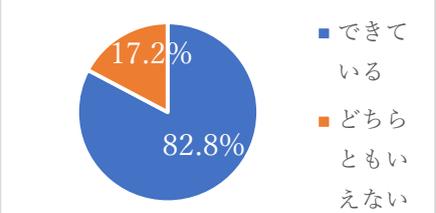
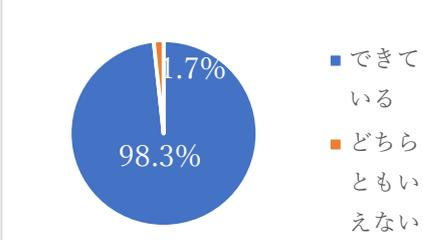
① 教職員（自己評価）

教職員自らが客観的な目で自園の教育・保育を振り返り、主体的に改善に取り組むために、課題を明確にすることを目的に実施。

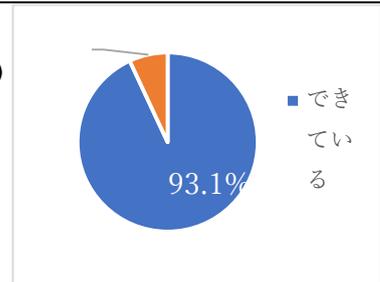
② 保護者（園評価）

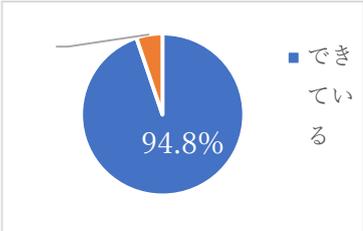
当園の教育活動に対し、どのように感じられているかをお聞きし、次年度の教育活動に活かしていくことを目的に実施。

③ 上記内容を参考にしながら、本年度の教育活動に活かせるよう各項目にまとめている。

評価項目	取り組み状況・今後の取り組みについて
勤務・入園に関すること	<p>●幼稚園に勤務して良かったか。(100%)</p> <p>●幼稚園に入園して良かったか。(98%)</p> <p>◇今後も、この評価を維持できるよう努めていく。</p> 
環境・施設・設備について	<p>●幼稚園の環境・施設・設備は良いと思いますか。</p> <p>教職員 (64.3%) 保護者 (82.8%)</p> <p>◇園の周りの環境は、自然にも恵まれており四季を通した活動を心がけている。動植物にも身近に触れることができる。</p> <p>◇園舎に関しては、例年、計画を立て優先順位を決めながら整備している。</p> <p>◇今年度から各保育室にエアコンを設置し、暑さ対策にも配慮した。</p> 
保育の在り方 (幼児への対応)	<p>●保育内容は充実していると思いますか。</p> <p>できている。教職員 (85.7%) 保護者 (98.3%)</p> <p>●教職員は一人ひとりの園児をよく理解し園児との信頼関係もよいと思いますか。</p> <p>できている。教職員 (85.7%) 保護者 (93.7%)</p> <p>◇園児一人ひとりを理解するため、クラス担任は勿論だが個人記録を作成し、担当だけではなく、バスの対応時やなかよし保育時など、個々の姿を職員間で共有し、個々の性格などもよく知り得ながらの対応を心がけている。保護者からの評価も高く、また、職員も努力している。</p> <p>今後も教職員は自信をもって園児との信頼関係に努めていく。</p> 
保育の計画性 保育の質の向上 (能力・姿勢・責任)	<p>●長期の指導計画はマンネリ化していないか、常に見直しを行い、園児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように対応しているか。</p> <p>できている。教職員 (50%)</p> <p>●指導計画を振り返り、評価、反省を行うとともに、教師として子どもへのかかわり方なども日々振り返り、明日の保育へ活かせるようにしていると思いますか。</p> <p>できている。教職員 (57.1%)</p> <p>◇自己評価は、確実に自信とまで繋がっていない。今後も教職員としての自覚、責任をしっかりとつよう意識する。どのような態度が望ましいか、職員間で話し合い模範となるような姿勢をもつ。</p> <p>◇指導計画、行事の内容を含めて、マンネリ化しないようにPDCAサイクルを通して改善を図りながら幼児期に必要な育ちに合った主体的・対話的で深い</p>

<p>保育の質の向上 (能力・姿勢・責任)</p>	<p>学びが育まれるよう質の向上を図る。</p> <p>◇幼児期において、探究心や思考力、表現力等に加えて、感情や行動のコントロール、粘り強さ、協調性等、社会情動的スキルやいわゆる非認知的能力を育むことが重要であることを踏まえ、質の高い幼児教育の提供に心がける。</p> <p>◇各学年での打ち合わせ、職員間でよく話し合い、各年齢に合わせた内容と子どもの姿をイメージしながらより具体的な計画を立て、子どもたちが意欲的に取り組める活動を心掛ける。</p>
<p>保育の質の向上 (研修)</p>	<p>◇今年度もこれまでの研修会（夏休み・冬休み）期間に実施される研修会に参加しリモート研修ではそれぞれ内容を把握し課題を意識し、レポート提出もできている。公開保育なども本人が学びたい園に積極的に参加し複数で数か所に出向いた。研修会を終えて職員間で感想や今後当園で取り入れたい保育など話すことができた。パート職員（補助）も市内で参加できる研修を負担なく参加できるように時間帯を考慮しながら進めていきたい。</p> <p>◇具体的な保育内容の実践、異年齢保育などについても園内研修を活用する。今後も保育者同士が意見交換しながら、日々の保育を振り返り互いを認め合い保育の質を高めていく。</p>
<p>安全管理について</p>	<p>● 園児への安全確保に注意が払われているか。 できている。教職員（64.3%）保護者（93.1%）</p> <p>◇保護者からは高い評価はある。 職員については子どもたちの安全をより確実にしていく。危機管理マニュアルに基づきながら安全な対応に努める。</p> <p>◇全国的にもバスの対応など問題化され見直す。バス運転業務職員、バス担当職員とマニュアルの徹底をし、今後も安全、安心に繋がるよう努めていく。</p> <p>◇園外保育に関しては春の遠足、りんご狩り遠足・かに釣り・年長お楽しみ会実施など事前に現地を下見し、安全確認をしている。</p> <p>◇園内での保育に関しても常に注意を払い、危険な遊び方はしていないか、活動が年齢や能力に対し、危険でないかと気を配り安心した園生活となるよう努める。</p> <p>◇冬季間の地震を想定した避難は避難路の雪が多く安全面を考慮し実施していない。今年度も園内での非常食の試食を体験することができ防災意識を高めることができた。</p> <p>◇交通安全教室についても毎月の教室の他、交通指導員の協力も得られ実施できた。また、『交通安全運動』に伴う安全啓発など旭川方面留萌警察署など関係機関から依頼を積極的に受け入れ学ぶ機会をより深めた。</p>
<p>保護者との連携について</p>	<p>● 園だよりやクラスだよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。 できている。教職員（85.7%）保護者（94.8%）</p>



<p>保護者との連携について</p>	<p>◇数年前より、園だよりやクラスだよりなどは ICT の導入により、アプリ内からの発信で実施している。動画を活用し、より分かりやすく子どもの様子を伝えることができた。行事予定など、必要に応じて紙面からも情報を公開している。</p>  <p>◇園のホームページを新しくし、教育的意図や根拠に触れて教育活動や子育て支援など分かりやすく情報を発信している。</p> <p>◇行事や参観日については、感染予防に努めながらも実施できた。</p> <p>◇個々の子どもの様子について、懇談や電話などで対応し、共に子供の成長を伝えあうことができた。今後も園と家庭との連携を大切にしていく。</p> <p>●保護者から寄せられた具体的な意見や要望に適切に対応しているか。 できている。教職員（78.6%）保護者（89.1%）</p> <p>◇全てのご意見、要望に答えられるわけではありませんが、園の考え方も理解していただき、それぞれのご家庭に不公平とならないよう今後も心がけていく。</p>
<p>地域社会との関わりについて</p>	<p>●地域の特性を生かした活動の実践をしているか。 できている。教職員（100%）保護者（98.3%）</p> <p>◇年長組のカニ釣り・りんご遠足など地域の特性を生かした活動を取り入れ、保護者からも高い評価は得ている。更に地域のお祭りの神輿参加やちやいるも子どもが遊ぶ施設に出向いた。冬には地域のスキー場をお借りして川遊び、スノーモービルに乗せていただく体験もできた。</p> <p>◇地域からの要請を受けての『エビマーチ』の披露も天候判断もあるが保護者の方、地域の方に喜んでいただけた。</p> <p>◇勤労感謝の日を通じて、園児の手作りのカレンダーを地域のお世話になっている関係機関に届けている。また、依頼があれば中学生、高校生による職場体験も積極的に受け入れ、進路意識、働くことへの意義などを大切な活動として、今後も協力を努めていく。</p> <p>◇地域関係者から積極的に園への活動応援をいただき行事参加、また音楽活動など支援をいただいた。今後も地域に愛される園でありたい。</p>
<p>園行事・係分担について</p>	<p>◆園行事について ◆PTA活動・係分担について</p> <p>PTA活動はその都度見直しながら、活動を保護者に理解していただき協力を求めて実施することができた。また、今年度は『さざなみ会』の協力もいただき活動の輪が広がった。（さざなみ会は祖父母の会だが近年はOBが活動参加している）本来は園における幼児教育が、生涯にわたる子どもの人間形成の基礎を培う上で大切であることをふまえ、園と家庭・保護者との連携が大切であることは踏まえていきたい。</p> <p>◆これまでの活動に対する意見などを参考にし、社会情勢（就労）にも配慮しつつ、PTA活動・係分担の負担軽減を図っている。今後も保護者の負担を最小限となるように心がけ、ご協力いただける方法を検討していきたい。</p>

預かり保育	<p>●預かり保育や子育て支援のあり方・考え方について学習しているか。 できている。教職員（64.3%）</p> <p>◇預かり保育については担当者を中心に行ってきた。共働き家庭や用事など保護者の利用ニーズも高まり、年々増加傾向にある。</p> <p>保護者のニーズに対応し、時間帯を早朝預かりと時間帯も延長・土曜日の預かりを実施してきた。教職員の労働時間も考えながら、今後も安心して預けていただけるよう努めていく。</p> <p>◇子育て支援として、『かもめキッズ』未就園教室を実施している。親子が一緒に遊べる機会や遊びの場の提供、さらには保護者の交流の場を提供している。近年、満3歳児になると入園希望が多く、その後のキッズの利用人数は少人数となるが親子が安心して過ごせる環境作りに努めている。</p> <p>年齢も満2歳が主である。様々な活動内容と日頃の子育てに耳を傾け、保護者に寄り添えることで子育ての支援に繋がっている。</p> <p>◇昨年から『一時預かり事業』を実施し、子育て支援対策として、保育施設や幼稚園に通っていないお子さんの一時保育を行ってきた。</p> <p>利用度も高く今後も保護者のニーズに答えていく。</p>
子育て支援	

4. 具体的な記述意見集計と対策

『園に対する感想』
<p>●かもめ幼稚園にきてよかったです。卒園しちゃうけど1年後また下の子を入園させたいと思います。</p> <p>●長男の時からお世話になり今回の卒園で我が家の幼稚園生活が終わりです。預かり保育の充実や給食移行数年で更に充実し、就労していても負担なく過ごすことが出来ました。子どもと近い距離で保育していただき安心でした。またたくさんの行事に携わることが出来て嬉しかったです。</p> <p>●子どもたちの性格を理解し子どもたちのことを考えていつも保育して頂き、ありがとうございます。</p> <p>●室内でも屋外でも様々な活動をしていただいて感謝しています。神居岩へ遊びに行ったり、園で収穫したじゃがいもで作ったカレーを食べる経験もとても良い経験だったと思います。</p> <p>満3クラスの冬の遊びは、準備や活動もとても大変だと思いますが数えきれないほどさせていただき先生方に感謝です。担任の先生はもちろん、それ以上の先生も我が子をよくわかって声をかけてくれることが嬉しいです。いつもありがとうございます。</p> <p>◇多くの保護者の方から、園に対する評価をいただきました。心を寄せていただいた気持ちを前向きに励み、今後も職員一同、より良い運営に努めて参ります。</p> <p>●帰りだけバスを使いたいのですが、全額ではなく、半額にならないですか？</p> <p>◇バスを利用するお子さまも減少傾向にあることから、できるだけご利用いただけるように令和7年4月から、一世帯往復3,000円、片道1,500円と変更いたしました。</p> <p>●英語や体操など、放課後に有料でできる教育環境があればありがたいです。</p> <p>◇令和7年4月から幼稚園型認定こども園に移行いたしました。保育を必要とする2号認定のお子さまがこれまで以上に増え、幼稚園活動を終えてから職員も担当制となり、各クラスで保育するので空き教室もなく、実施することはできません。習い事は各ご家庭で教室をお探しください。</p>

●クラス以外の先生方のお名前、顔が一致せず、お迎えの時ににお会いするのにわからないことが失礼になります。先生方のお名前だけでも分かるとう安心します。

◇皆様に安心していただけるようにネームをつけるようにしています。ご理解いただけるようにいたします。

●今の年中クラス、年長になっても1クラスならせめてもう1人、みんなをみてる先生が必要だと思います。また、給食ですが完食を目指すのはいいことですがストレスを感じている子もいるという認識もしてほしいです。

◇全体の園児数は減少傾向にあり、年少児には手厚く職員を配置しております。年中児のクラス人数は他のクラスに比べ多いと感じられていたと思いますが年齢別に保育者の援助も違ってきます。

年長児には友達と様々な体験を重ねることで自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら決まりを作ったり、守ったりするなど職員が多く配置されればよいという年齢でもありません。

今年度からは、他クラスとの交流も多く取り入れること、また保育内容を見極めながら今後もフリーの職員に見守ってもらえる体制をとりながら、良いクラス編成となれるように努めていきます。

5. 財務状況

財務状況

◆公認会計士に依頼し、適正に運営されています。

6. 次年度の重点的な目標・計画

●令和7年4月から『幼稚園型認定こども園』に移行となる。

●より一層、保育の質の向上を目指していく。指導計画・園内研修について、職員間で話し合い、前向きに研修を進めていき理論と実践に繋げ、より良い保育に努めていく。また、職員は園児の模範となる行動や言動が取れるように一人ひとり、意識を高める。

●地域社会との繋がりを大切に、地域の特性を生かした活動や、四季を通して、子どもたちが伸びやかに活動し、多くの学びが得られるよう見直す。

(地域交流・エビマーチ)(園周りの探索活動)(ちゃいるもなどの遊び場利用)など

●少子化が進み、園児数が減少傾向にあり、年中・年長は学年1クラス編成とする。これまで以上に職員間で学年の取り組みと同様に異年齢での活動計画を立て、週に1度は活動できるように進級と同時にグループ編成しておく。職員間で子ども一人ひとりの共通理解を図る。

●認定こども園となることから、これまでの幼稚園生活と2号認定の保育を必要とする子どもたちが無理なく家庭環境に近い形で長時間、園生活を過せるように保育環境を整える。

●昨年からの外販での給食がスタートした。子どもたちは無理なく美味しくいただけるよう声かけなど配慮する。食育活動も更に力を入れ、市民農園(じゃがいも・さつまいも)での収穫や園庭での夏野菜の栽培など毎日観察しながら、自分たちで育てたものを試食できるように努める。市内の管理栄養士さんのサポートを得ながら、クッキングなど楽しく試食できるようにする。

●各関係機関との連携を大切にする。就学時は小学校との連携を大切にしながら、学校見学などをし、年長児が期待をもちながら就学へと繋がるようにする。

入園前には、保護者の了解を得て、支援を要する児の対応として十分な連携を心がける。

●ホームページや園のアプリを通じて、今後も園の情報、子どもたちの様子など情報を発信していく。